

物流実務
カレッジ

現場の「職人」養成

日本
ロジック 4月開校へ説明会



「どんな職場環境や条件にも対応する意欲を」

「物流実務カレッジ」の開校を四月に予定している日本ロジックファクトリー(本社・大阪市、青木正二社長)は昨年十二月十二日、都内で概要説明会を開催。物流事業者の人事担当者など約二十人が集まった。冒頭、青木社長は「日本では物流のプロが育っていない。物流は今後どんどん外資の仕事になるという懸念がある。会社の方で、早くプロを育ててほしい」と趣旨を説明した。

「物流クリエイターコース」は、四月〜翌年三月

日本の物流企業では、ドライバーや中間管理職などが採用できないなど、人手不足が深刻化している。青木氏は「パート・アルバイトの教育の仕組みをうまく作れる企業が業界で優位に立てる」とし、「物流実務カレッジ」では、現場の運営に視点を置いた教育を行う方針を示した。同校は、東京都の渋谷区と品川区の二カ所で開校を予定。高卒の学生を対象とした全日制のコースや社会人向けの週末集中型のコースなどを準備し、幅広い層に現場運営のノウハウを教える。メインとなる全日制の「物流クリエイターコース」は、四月〜翌年三月

の一年間で、計四百二十三時間の授業。物流企業との提携により、物流現場での実習や、サービス・コスト管理、物流管理手法などの授業を行う。年間費用は、入学金

授業料など合わせ百八万五千円。

1月〜都内で短期の講座も

象に短期集中型の講義を都内で開催する。

青木社長は「教育体系が整っていない現状では、勤務地や条件が変わると全く仕事ができなくなるという管理者が多かった。基本的な知識を身に付けた「職人」として、どんな場所でも対応できる人材を育成していく」と意欲を語った。同校では、開校後十年間で千人の卒業生を送り出す予定。

「物流コンサルタント養成コース」は一月十四日から隔週土曜日に全六回行い、現場管理の手法を講義。「提案営業マンパワーアップコース」は二月四、十八、三月四日の全三回。営業の人材はそろっているが、提案力を欠くという企業の担当者が対象。

開校に先立ち、同社では一〜三月、社会人を対

受講料はそれぞれ、三十一万五千円、十五万七千五百円。申し込み期限は一月三十一日。問い合わせ先は、同社スクール事業部、電話03(6214)3309。